

- ⑤ 「男性優位否定意識」、「子ども尊重意識」、「男女参画支持意識」、「多様な性受容意識」の間に強い関連が認められる。男性優位意識の強い人ほど、子どもの人権を軽視する傾向にあると解される。
- ⑥ 「障害者包摂意識」と「高齢者包摂意識」との間に強い関連が認められる。地域社会の中で、障害者も高齢者もともに生活できることを支持する意識と解される。
- ⑦ 子の結婚相手について、子の意識を尊重する意識は、「部落忌避否定意識」、「外国籍包摂意識」、「男性優位否定意識」、「多様な性受容意識」の間に強い関連が認められ、いずれも差別を否定する意識と解釈できる。
- ⑧ 自分の結婚相手について、親戚を説得する意識は、「人権尊重理解意識」、「寝た子を起こす意識」、「差別非許容意識」、「多様な性受容意識」と関連する。人権尊重を進める意識と解される。
- ⑨ 少し興味深い点として、「男性優位否定意識」と「子ども尊重意識」と強い関連が見られ、「男女共同参画支持意識」と「子ども理解意識」と強い関連がみられることである。男女差別や子ども差別を否定する差別否定意識と、男女共生と子ども共生といった共生推進意識の違いと言えるかもしれない。また、「高齢者包摂意識」に着目すると、「高齢者包摂意識」は、「子ども理解度」や「男女参画支持意識」と関連するが、「子ども尊重意識」や「男性優位否定意識」とは直接な関連が見られず、ここでも、地域社会における共生推進意識と解される。  
人権意識の中で、少なくとも、優位—劣位（あるいは、差別—被差別）を否定し、すべての人びとの対等な関係を尊重する人権意識と、だれもが共生できることを尊重する人権意識と区別できるかもしれない。

## 7 終わりに

今回の分析結果は、今後まだまだ、同様の調査によって信頼性を高める必要がある。

とはいえ、今回、試みたような人権意識相互の関連を捉えることにより、今後の人権学習や人権啓発に活かすことができるものと期待される。

例えば、部落問題と外国籍・他民族の人の人権課題をセットにし、必ずジェンダー平等の視点を取り入れた学習や研修を行うことが有効であると考えられる。

また、男性優位否定意識を高めるうえで、職場、家庭、社会全体の性別役割分業の見直しを促すような学習や研修を行うこと、その際に、子どもの人権尊重の課題も組み込むことも人権学習や研修の効果を高めるものと期待される。